

あがの 市議会だより

第65号

令和7年
12月定例会号
令和8年1月16日 発行

主な内容

議案ピックアップ・議決結果	P2
常任委員会の活動報告	P3-4
市政を問う一般質問(13人)	P4-7
次回定例会の予定ほか	P8



 **本年もよろしくお願ひ申し上げます** 

10月7日に
臨時会が開かれました

12月定例会が
12月8日～16日の
会期で開かれました

8日 本会議

- 一般行政報告
- 議案の提案説明
- 一般質問1日目（5人が質問）



9日 本会議

- 一般質問2日目（6人が質問）



10日 本会議

- 一般質問3日目（2人が質問）



12日 各常任委員会

- 委員会に付託された議案審査等



16日 本会議

- 各常任委員会の審査報告の後、
討論を経て採決
※議決結果は2ページ

新年のごあいさつ



阿賀野市議会議長 大滝 勝



新年あけましておめでとうございませう。
市民の皆さまにおかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、市政ならびに市議会の取り組みに対し、温かいご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、阿賀野市では幸いにも大きな災害に見舞われることなく一年を過ごすことができました。一方、全国的な自然環境の変化の影響もあり、クマの出没が多発するなど、市民の皆さまにご心配やご不安をお掛けする場面もございました。日頃から注意を払い、地域で安全に気を配っていただいたことに、あらためて感謝申し上げます。

まちづくりの面では、クリーンセンターあがのがわの供用により、環境に配慮した安定的な廃棄物処理体制が整いました。また、念願でありました阿賀野バイパスが全線開通し、所要時間の短縮だけでなく、地域産業の発展につながるものと大いに期待しております。

このような施設整備も平穏な日々も、全ては市民の皆さまのお力添えがあつてこそ、かなえられたものであります。

議会としても、引き続き市民の声に丁寧に耳を傾けながら、皆さまの暮らしがより安全・安心で、より豊かになるよう取り組みを進めてまいります。

結びに、皆さまの日々が笑顔と温かさに満たされた一年となりますよう、そして阿賀野市がうま年の勢いにあやかり、さらに前進することを願ひ、新年のごあいさついたします。

議案ピックアップ

提案された議案について、さまざまな視点から審議を重ねます。
12月定例会で審議した議案の中からお知らせします。

一般会計補正予算(第6号)

主な内容

- アーバンベア捕獲緊急対策事業費 618万円**
人の生活圏に出没するクマを集中的に捕獲するために要する費用を計上。
- 小中学校長寿命化等改修事業費 384万円**
京ヶ瀬中学校グラウンド整備に先立ち行われる電柱移設の支障となる樹木の伐採費用等を計上。

阿賀野市子育て支援施設設置条例の一部改正について

令和8年4月1日から子育て支援施設において、乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)を実施するため、所要の改正を実施。

阿賀野市火災予防条例の一部改正について

令和7年2月26日に発生した大船渡市林野火災を受け、消防庁が開催した「大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」の報告書において、林野火災注意報や林野火災警報の的確な発令等によって林野火災予防の実行性を高めることが必要であると示されたため、所要の改正を実施。

12月定例会の議決結果をお知らせします

10月7日臨時会

議案名		審査した委員会※	議決結果
予補算正	令和7年度阿賀野市一般会計補正予算(第5号)	省略	可決

全会一致で議決した議案等

12月定例会

議案名		審査した委員会※	議決結果	議案名		審査した委員会※	議決結果
人事	阿賀野市農業委員会委員の任命について(小柳 浩氏)	省略	同意	条例	阿賀野市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市一般会計補正予算(第6号)	総文 産厚	可決		阿賀野市子育て支援施設設置条例の一部改正について	産厚	可決
補正予算	令和7年度阿賀野市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	産厚	可決		阿賀野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	産厚	可決		阿賀野市子ども・子育て支援法第82条の規定による過料に関する条例の一部改正について	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市介護保険特別会計補正予算(第2号)	産厚	可決		阿賀野市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正について	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市水道事業会計補正予算(第2号)	産厚	可決		阿賀野市火災予防条例の一部改正について	総文	可決
	令和7年度阿賀野市下水道事業会計補正予算(第1号)	産厚	可決		阿賀野市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について	省略	可決
	令和7年度阿賀野市病院事業会計補正予算(第1号)	産厚	可決		阿賀野市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	省略	可決
	令和7年度阿賀野市一般会計補正予算(第7号)	省略	可決		阿賀野市特別職の職員で常勤のものの給与に関する条例の一部改正について	省略	可決
	令和7年度阿賀野市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	省略	可決		阿賀野市一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について	省略	可決
	令和7年度阿賀野市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	省略	可決		阿賀野市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	省略	可決
	令和7年度阿賀野市介護保険特別会計補正予算(第3号)	省略	可決	その他	新潟県市町村総合事務組合規約の変更について	総文	可決
	令和7年度阿賀野市水道事業会計補正予算(第3号)	省略	可決		公の施設に係る指定管理者の指定について(阿賀野市赤坂地区コミュニティ公園)	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市下水道事業会計補正予算(第2号)	省略	可決		市道路線の認定について	産厚	可決
	令和7年度阿賀野市病院事業会計補正予算(第2号)	省略	可決	請願	地域ボランティア活動に対する支援(ポイント付与事業)の継続を求める請願	総文	不採択
条例	阿賀野市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報情報の提供に関する条例の一部改正について	総文	可決	発議	阿賀野市議会の個人情報の保護に関する条例の一部改正について	省略	可決
	阿賀野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	総文	可決	※省略：本会議で即決したもの 総文：総務文教常任委員会 産厚：産業厚生常任委員会 各委員会での審査結果は市ホームページでご覧になれます。			
	阿賀野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	産厚	可決				
	阿賀野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	産厚	可決				

意見が分かれた議案等

12月定例会

○：賛成 ×：反対 議長(大滝勝)は採決には加わりません。

議 案 名				審査した 委員会※	議決結果	公明党	日本共産党				新風あがの						会派の所属なし		
						村上 清彦	宮脇 雅夫	松崎 良繼	清水 博英	風間 輝榮	市川 英敏	天野美三男	遠藤 孝	荒澤 浩和	阿部 順三	披田野勝幸	菅原 道明	遠藤 智子	清野 栄一
条例	阿賀野市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について			省略	可決	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	討 論 (要旨)	反対意見	厚労省が公表した10月の勤労統計調査によると、物価変動を考慮した1人当たりの実質賃金は10か月連続のマイナスだった。家計を圧迫する物価高騰に追い付いていない。市民が将来への不安を抱えながら生活している状況で、議員の報酬を引き上げるべきではない。																
請願	地域ボランティア活動に対する支援(ポイント付与事業)の継続を求める請願			総文	不採択	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○

議会の情報は市ホームページをご覧ください

阿賀野市議会

検索

本会議会議録や議員名簿、会議の日程、本会議の中継映像・録画映像がご覧いただけます。
ぜひご利用ください。



●中継はこちら

会議名、議員名、用語などから検索できます。
視聴したいものを選んでクリック！



阿賀野市
イメージキャラクター
「ごずっちょ」

議会を傍聴しませんか

事前の申し込みは不要です。傍聴席入り口にある受付簿に住所・氏名を記入して傍聴してください。
※現在、感染症予防のため、傍聴席の席数を減らしています。
※体調がすぐれない人は、傍聴をご遠慮ください。
※入室の際は、手指消毒にご協力をお願いします。



総務文教
常任委員会

総務部と民生部が所管する市政全般の企画・調整、財務、市税、防災、教育、生涯学習等に関する調査や議案・請願等の審査を行います。

令和7年9月24日に所管事務調査を行いました

廃校の利活用について

廃校施設の現状

平成21年に寺社小学校と大和小学校、平成26年に前山小学校、平成29年に山手小学校と赤坂小学校、そして令和5年に分田小学校と安田幼稚園、出湯保育園が閉校・閉園となり、令和7年3月31日時点で、小学校が6校、幼稚園・保育園が2園、計8施設が閉校・閉園状態となっています。

現在の利用状況

寺社小学校と大和小学校の校舎は、旧耐震基準による建築物であるため安全性の担保が取れておらず、常時人が入居する状態での貸し付け等は現在控えています。そのため利用できる施設は、一般企業への貸し付けを行っている赤坂小学校と、定期利用団体が使用している4つの体育館を除くと、前山小学校、分田小学校校舎、安田幼稚園、出湯保育園の4施設となっています。

寺社スケートボードパークの開設まで

寺社小学校の体育館やグラウンドの活用事業について、令和6年7月に提案募集を行ったところ、1社から応募があり、審査を経て、優先交渉権者を合同会社A.O.エースに決定しました。

その後、文部科学省利活用の報告手続きを経て、令和6年10月に令和11年10月までの5年間

閉会中の継続調査事項（3月定例会まで）
部活動の地域展開について

の賃貸借契約を取り交わし、設備等の設置期間を経て、令和7年7月に寺社スケートボードパークの開設に至りました。現在は、大手スポーツ会社と連携を取りながら活動し、小学生や青少年を対象に、週末をメインとしたスクールや体験会、自由滑走に利用している状況です。

課題

施設の老朽化や体育館の避難所指定、体育館の定期利用団体利用により、活用を検討する事業者の意向に沿った貸し出しができない、比較的新しい施設の貸出料が割高となるなどの課題があります。

【意見集約】

寺社スケートボードパーク開設までの経緯の説明を受けた後に現地へ出向き、運営会社の涌井代表社員から説明を受けるとともに、活用の様子を視察しました。

視察後の委員の意見としましては、

- ・夏季期間の暑さ対策として、移動式エアコンの設置について、市と協議・検討（貸与）すること。
- ・屋根の雨漏り修繕を市が行うこと。
- ・校庭内侵入口から体育館（スケートボードパーク）入り口までの草刈り・美化対策と併せ、地元のスポー



運営会社の代表社員から指導を受ける委員



体験会の様子を見学する委員

ッ少年団や一般市民などがグラウンドでサッカーや野球など気軽に楽しく有効活用できるよう、除草・整地などの整備を市の責務で行うこと。

などの意見が出されました。

また、利活用されていない土地や建物などの公有財産が増加することは、少子化・人口減少と共に近い将来懸念される財政逼迫の大きな要因となり、市の存続そのものに影響を与える解決すべき喫緊の課題・問題です。

そのためにも、利用されていない土地や廃校などの公共施設の処分・利活用対策に、より一層全庁挙げて取り組むよう意見集約されました。

産業厚生
常任委員会

民生部と産業建設部が所管する福祉、介護、子ども、保健、医療、環境、道路、河川、商工業、農業、観光、公園、上下水道等に関する調査や議案・請願等の審査を行います。

令和7年10月22日に所管事務調査を行いました

地域計画と農業の担い手不足に対する取り組みについて

地域計画について

地域計画とは、農業経営基盤強化促進法の改正により、高齢化や人口減少による農業者の減少、耕作放棄地の拡大といった各課題に対応するため、農地が適切に利用されるよう農地の集約化等を進めることを目的としており、地域農業者から話し合いを進めていただき、その結果に基づいて市町村が策定したものです。

阿賀野市では、令和5年度から農業経営意向調査を行い、その結果を用いて各集落等で説明会や地域別に協議の場などを開催し、それぞれの地域で話し合いを進め、令和7年3月に地域計画を策定し、公表しました。

この計画では、市内を18地域に分けました。経営面積と集積率は、9割以上の集落が現状維持という意向を示した結果、現状と10年後がほぼ同等となりました。担い手は、延べ人数が1,097人、実人数が632人です。集積率は、令和7年度当初の数値で、市全体で69・8%です。10年後の目標集積率は、国の目標方針に合わせて90%と定めましたが、耕作については今後もさらに話し合いが必要です。目標地図について

は、現況地図がほとんどです。10年後、耕作者が減少し、残った耕作者や集落で話し合い、農地を守っていくために目標地図のブラッシュアップの取り組みが必要です。

担い手不足に対する取り組みについて

市内の新規就農者については、令和2年度からの5年間で24人です。

市では、就農意欲のある地域おこし協力隊を採用し、農業の担い手が不足する地域や法人において農業研修をして、その地域での就農を目指しています。資金面では、市内で研修を受けながら最長で2年、また、がんばる農家支援事業で最長3年の支援を行っています。

PR活動としては、首都圏などで開催される「農業人フェア」などへ出向いて就農相談などを行い、お試し移住や農業体験につなげています。さらに、有機農業の取り組みや新規就農者を紹介する動画を作成し、市ホームページに掲載することで、問い合わせが増加しています。また、現在笹神支所で農地農業相談会を実施しています。今後も、農林課、農業委員

会、農業協同組合、土地改良区等の関係機関で協力しながら取り組みを進めていきたいと思えます。

委員会意見

農業の担い手不足は全国的な問題ですが、特に中山間地域は非常に厳しく、現実的にあと数年で後継者、担い手がなくなる状態のため、地域農業を守るための取り組みは急がれるべきだと思います。国がそれなりの施策等をするべきですが、市としても引き続き地域と一緒にやって取り組んでほしい。また、農業従事者が減っていく、1人当たり、1経営体当たりの耕作面積が増えてくるという中で、それを支えるような支援が必要だと意見集約されました。



産業厚生常任委員会 視察研修

令和7年10月2日に視察研修を行いました

○山形県鶴岡市

鶴岡市立農業経営者育成学校 新規就農者確保の取り組みについて

鶴岡市は平成17年に6市町村が広域合併してできた市で、基幹的農業従事者は4,640人、経営耕地総面積は15,502haです。令和5年の農業産出額は286.2億円で県内1位、東北7位で、米が約45%、園芸作物が約43%と、米と園芸の両輪で農業産出額を支えています。

直近5年で、基幹的農業従事者数は年平均163人がリタイア、1経営体当たりの経営耕地面積(経営規模)は16%増、新規就農者数は年平均44人で、農業従事者の減少は続いています。

鶴岡市立農業経営者育成学校(SEADS)の特徴として、農業技術の指導にとどまらず、実際の農家への実習を通して、農家の生活リズム、出荷調整や作業をスムーズに行うノウハウなど、現場に必要な実務を習得させるカリキュラムになっています。地域に根ざした農家との連携により、座学だけでは得られない「生きた知識」を効果的に提供し、研修生が市内の現場で実習を行うことで、卒業後すぐに地域に貢献できる即戦力となる新規就農者を育成し、毎年10人弱の卒業生を送り出しているとのことでした。

行政の役割として、行政が単独で研修を行うのではなく、地域全体を巻き込んだ育成システムを構築・支援している点が、効率的かつ持続可能な担い手確保策のモデルとして参考になりました。

市が中心となりつつも、県、農業協同組合、地元の農家等の他のリソースを最大限に活用しており、地域資源の活用として、既存の産業資源(熟練農家、地元企業など)を「教育資源」として位置付け、行政がそのマッチングと運用を支援することで、限られた予算の中でも効果的な人材育成を実現できるほか、「座学+実践」の統合モデルとして、農業分野で成果を上げているこのモデルを、地域の伝統工芸や観光サービス業など、他の産業の担い手育成プログラムにも応用すべきだと考えます。

卒業生を毎年10人弱送り出していることについて、予算的にこの人数が適正かどうかは議論の余地がありますが、毎年100人程度の離農者がある現状で、10人弱を確保できる点は評価でき、また、多方面における地域の担い手としての活躍も実績があることから、この成果は新規就農者確保以上の効果が認められ、他の事業への波及効果も十分に期待できると思いました。



総務文教常任委員会 視察研修

令和7年10月8日・9日に視察研修を行いました

○宮城県加美町

廃校施設の利活用について(国立音楽院)

加美町では、小中学校の再編に伴い、廃校となった施設の跡地利活用の検討をしています。

そのような中、国立音楽院から提案のあった「地方創生に関する音楽と福祉の構想」事業に町長が興味を持ったことをきっかけに、誘致の協議を始めました。

国立音楽院のために町が支出している費用は、音楽技能習得施設に関係するような改修や備品の購入、イノシシ防護柵の設置、スクールバスの準備、寮の整備のための補助金拠出、学生の家賃補助などです。

学生は、ランチ会やバーベキューの開催、小学校での楽器指導、地元高校の吹奏楽部との合同演奏会などを通じて地元住民と交流しています。

また、地元住民からアルバイトとしての労働力も期待されています。

○宮城県川崎町

廃校施設の利活用について(ikuto、イーレ!はせくら王国)

川崎町の廃校施設で活用されているのは5つで、複合型アーバンスポーツ施設やカフェなどの地域交流施設、子どもたちのアウトドア体験会場として活用されています。

廃校施設を利活用するに当たり、開催した地元区長との意見交換や地元説明会で、地域活性化につながるような事業内容がよいといった意見があり、企画の提案を募集しました。

旧川内小学校体育館を改修した「ikuto」は、スケートパークとして活用を開始し、現在は旧校舎やグラウンドで他のアーバンスポーツ施設やカフェも開業しています。

旧支倉小学校校舎では、カフェを中心とした施設、「イーレ!はせくら王国」として活用しています。地場産野菜の販売、木育施設があり、旧体育館にはワイナリー、グラウンドにはキャンプ場があり、カフェが経営主体となり、それぞれの場所を転貸しています。

【意見集約】

このたびは廃校の利活用について、先進地2か所を視察しました。

旧上多田川小学校の音楽技能習得施設としての活用については、平成25年から跡地利利用検討会を設置し、閉校地区の全世帯を対象にアンケートを実施したとのもので、より住民との交流・コミュニティへの貢献・教育等を考慮した施設に生まれ変わり、学生が安心して学べる環境だと認識しました。

川崎町の廃校活用施設「ikuto」は、スポーツ複合施設として活用しており、高度な専門のスタッフが指導する中、多くの子どもたちがスポーツを楽しんだり、防災を学んだりしています。

また、「イーレ!はせくら王国」は、食事ができるカフェ施設や子どもたちが気軽に遊べる木育施設、地場産野菜即売所も併設しており、平日にもかかわらずかなりにぎわっていました。旧体育館もワイン工場として活用しており、充実した施設だと感じました。

本市においても、廃校の利活用について、早めに地元住民や市民のアンケートを実施して検討会を立ち上げ、交流人口・定住に貢献できるように検討を進めるべきだと思います。

一般質問



新風あがの
風間 輝榮



仮称「寄贈お宝作品展」開催に向けて

質問 これまで阿賀野市に寄贈された多くの作品が市民の目に触れる機会がない。作品を一堂に集めた「寄贈お宝作品展」を企画する考えはあるのか。

答弁 貴重な絵画、書画、掛軸、彫刻など数多くの作品があり、寄贈者の思いや文化的価値を尊重し、市役所のロビーをはじめ公共施設等に常設展示している。

質問 これまで寄贈された作品数は、どのくらいあるのか。
答弁 総作品数は371点で、内訳は絵画(水墨・水彩を含む)



新風あがの
阿部 順三



五頭山系の害獣について

質問 五頭山系の集落の空き家や畑にクマの餌となる柿の木が放置が見られる。所有者不明のものもあるが、住民の安全・安心を考えると放置しておけない。クマについての対策を伺う。
また、緊急銃猟制度改正鳥獣保護管理法が成立し、市長の判断で緊急銃猟が可能になったが、対応できるハンターは十分かを伺う。

答弁 今年はクマの餌となるブナ類が凶作で、生活圏に出没しており、40頭のクマを捕獲したほか、多数の目撃情報がある。

180点、書画65点、掛軸16点、版画9点、彫刻9点、剥製4点、つば(花瓶)8点、色紙2点、写真5点、書簡1点、像3点、その他69点ある。
今後、引き続き企画展示という形で計画的に寄贈品を公開し、市民の文化鑑賞機会の拡充に努める。



福祉会館「廃止」(案)について

質問 10月28日と11月8日に開催した市民・団体への説明会では、利用者から理解を得ること

クマは昨年比で目撃・捕獲共に約5倍になる。目撃箇所には柿の木があり、放置果実が原因である。広報紙や市ホームページで周知し、出没した自治会には果実除去を要請している。所有者が伐採に合意した果樹は、自治会の要望により市が予算の範囲内で伐採を予定。目撃情報があった場合、警察や猟友会などと情報共有して防災無線などで注意喚起し、箱わなの設置などをしている。現在、緊急時に対応できるハンターは62人、うち緊急銃猟等に対応できる経験豊富なハンターは22人いる。

令和7年度地域防災訓練と河川整備について

質問 訓練の効果と課題点を伺う。また、主要河川の点検と今後の計画について伺う。

ができなかったが、今後の対応についてどのように考えているのか。

答弁 今後の方針案について、近隣自治会や利用団体へ説明し、それに対する参加者からの意見としては、歩いて行ける施設、避難所となる施設として、福祉会館は必要という意見が多かったと報告があった。

市としては、市民のニーズに応える行政サービスを提供すること、将来的な財政負担を少なくすることの両面を考えていく必要がある。説明会で出された意見も含め、課題を共有し、何が最適なのかを考え、取り組んでいくことが肝要であり、今後も議論を重ね、最終的な判断をしていきたい。

質問 市長の最終的な判断は、いつまでにするのか。

答弁 来年の2月か3月までに判断する。

答弁 災害時の行動を事前に確認することで災害対応力の強化が図られたとともに、人命救助訓練など緊張感のある訓練を体験してもらい、防災意識が高まった。問題点は、46自治会中26自治会しか参加が得られず、若年層の参加が少なかった。次回は幅広い年齢層から参加してもらえるように計画する。河川整備は県が実施している。改修状況は計画どおり進んでおり、今後も県に河川整備推進を継続要望し維持整備に努める。





新風あがの
披田野勝幸



農地賃借料情報と 遊休農地の現状に ついて

質問 本年産生産者米価は高価で、賃借料情報の金額で賃貸借契約をしている高齢者世帯は、10アールで米1俵も買えない。米価情勢にあつた賃借料情報を提示する考えは。

答弁 米価高騰や凶作など事態に即した賃借料情報提供を検討する。

質問 今年の生産者米価高から、貸し手に配慮した農業者はいるのか。

答弁 飯米を安価に提供したり、賃借料を足したりする人も多くいる。



無会派
清野 栄一



亡国のコメ政策に ついて

質問 コメ一転減産！まさに朝令暮改の「猫の目農政」。

稲作農家の急激な減少と気候変動による生産の不安定化を考えると、増産と所得補償政策は必須の政策と思うが如何か。また、コメの値段が下がらないことから輸入米が9月は昨年の1.59倍となっている。食糧安保の面でも課題になると思うが所見を伺う。

答弁 増産と所得補償政策については同感である。食糧安保については、合理的な価格で国が責任を持って安定供給を行うべきである。

質問 土地改良費の負担は貸し手が主だが、土地改良費のうち水利費は生産に必要な経費であり、借り手が負担する方針の検討は。

答弁 検討する。

質問 遊休農地の発生防止と不作付農地の再生指導に努める考えは。

答弁 農業委員・農地利用最適化推進委員の活動を強化する。

児童・生徒の通学時の 安全性確保の考え方 について

質問 クマなど有害鳥獣の多発、猛暑や大雪などの異常気象、交通事故や犯罪から児童・生徒を守るため「通学バス」の利用基準を見直す考えは。また、昨今のクマ対応策は。

答弁 クマ鈴を笹神・安田地区の全ての児童・生徒に配付。クマ目撃時には臨時通学バスや保護者からの迎え、集団下校で対応する。

さである。

福祉会館について

質問 9月、行政改革推進委員会の答申で修繕継続とされている福祉会館を廃止したい旨説明があつた。ここは公民館的な役割とともに避難所（水原地区は他地区に比べ収容数が少ない）にも指定。廃止説明会には10月28日約60名、11月8日約20名の利用者等が出席、強い反対意見が多くあつた。行政改革推進委員会の答申通り残すべきものとして強く要望し所見を伺う。

答弁 行政改革推進委員会の意見を踏まえ改修を検討したが費用が高額で、利用者も減少すると想定され、廃止の方針案を示した。

質問 過去3年の利用者を見て、も増加傾向であり、使用料収入と費用はトントン。

応じた。通学バスの運行基準は他市町村より児童・生徒に寄り添っている。

質問 クマはいつどこに出没するか分からない。クマ鈴が有効と判断したならば、早めに配付すべき。

答弁 出没の多い地区を優先した。全校に必要かは今後検討する。

質問 異常気象・有害鳥獣・交通事故・犯罪から子どもたちを守る最大の対策は通学バスだ。運行基準を見直ししては。

答弁 改正する考えはない。

質問 仮称「有害鳥獣・異常気象時での通学に関する懇談会」を開催しては。

答弁 しっかりと丁寧に進める。



答弁 コロナ前との比較では利用者が減少している。

質問 この周辺は新潟地震で大きな被害を受けている。県地震被害想定でも月岡断層帯震度7、信濃川西縁震度6弱などが想定されており、廃止はできない。

答弁 避難所は民間の施設等の活用も考えていく。

質問 躯体はコンクリート造で、50年前後は一番強度がある、今壊すのはもったいない。結論は3月という事だが、「さくら咲く」で期待している、故障トイレも直すべき。

答弁 トイレは直す。



無会派
遠藤 智子



道の駅の搾乳環境の 整備について

質問 国土交通省の「公共交通機関の移動等円滑化整備ガイドライン」の改訂で、産後の母親が授乳室で搾乳が可能であると記載するとともに、「出入り口付近には、授乳・搾乳、おむつ替えのためのスペースであること」を表示することと新たに明記された。見解を伺う。

答弁 搾乳は、低出生体重児等で産まれた子の母親が入院先に母乳を届けるため、また、早期に復職した母親が乳腺炎予防のために必要で、授乳室と同等の整備を図ることが重要と認識している。



新風あがの
天野美三男



阿賀野市のごみ分別等 について

質問 今年度から五泉地域衛生施設組合クリーンセンターあがのがわがスタートした。そのような中でごみの分別変更等が行われ、各自治会のごみ集積場で問題が多く発生していると聞くが、4月からのごみの収集について伺う。①ごみの回収・粗大ごみの回収等についての問い合わせや苦情②ごみ回収業者から指摘された問題点③不法投棄の状況と防止対策について

答弁 ごみの分別や出し方についての問い合わせは、ほぼ毎日3、4件程度あり、さらに粗大

ている。県配布の「搾乳マーク」の表示用ステッカーを道の駅・市立図書館の授乳室に貼付した。その他子育て支援施設等で親子の利用が想定される施設に搾乳マークを配布し「授乳室は搾乳も行える場所」として周知啓発に努める。

赤ちゃんの頭蓋骨矯正 ヘルメットについて

質問 赤ちゃんの頭蓋骨は、1歳ぐらいまでに固まり、向き癖などで形がゆがむ頭蓋変形症は、重度だと矯正ヘルメット治療を勧められる場合もあるが、代金は30〜60万円と高額で、県外自治体では補助事例も聞かれる。当市では相談事例がないことだが、予防、指導、支援の考え方を伺う。

答弁 幼児期の頭のゆがみは、頭蓋骨が早期に結合する「病的

ごみの収集日には10件程度の問い合わせがある。木製たんす等の可燃性粗大ごみをそのままごみ集積場に出せなくなったこと等が理由である。水原地区の1自治会からはカーペット等の裁断や木製家具の解体について再検討するよう要望があつた。これからも丁寧に対応するとともに、市ホームページや広報紙などを通して周知・啓発に取り組んでいく。不法投棄発見件数は、令和6年度は16件で、10年前（平成27年）の46件と比べると30件減少している。



頭蓋変形」と外部圧力を受けてゆがむ「位置的頭蓋変形」があり、ほとんどの頭蓋変形の原因が向き癖等で予防可能であるため、生後2か月ごろまで頭を一定の向きで寝かせ続けないよう、授乳の向きや話しかける方向を変える、首がすわった後はうつぶせの時間をつくるなどの指導をしている。

スポーツ交流に伴う 宿泊施設について

質問 市でスポーツ大会が開催されたときに、宿泊施設が少なく困っているとの指摘を受けた。スポーツを通じた地域間交流も大切と思われるが、見解を伺う。①スポーツの大会等で宿泊可能施設はどれくらいあるのか②公の施設リズム・ハウス瓢湖の再開等は可能なのか

答弁 宿泊可能人数は、五頭温泉郷で472人、安田地区で247人。その他五頭連峰少年自然の家も利用可能。リズム・ハウス瓢湖は、宿泊再開も含め指定管理者施設での運営を模索し公募を行ったが、申請書の提出に至らなかった。



新風あがの
遠藤 孝



阿賀野市観光振興について

質問 本市の観光振興の取り組みについて、現在、市の観光振興基本計画（観光戦略プラン）はあるのか伺う。

答弁 現在、観光振興基本計画（観光戦略プラン）はないが、市の総合計画に基づき観光振興に取り組んでいる。今後、観光協会の法人化に係る準備とともに、検討委員会での観光ビジョンや観光戦略



新風あがの
菅原 道明



事務事業評価の運用の実態と評価体制について

質問 事務事業評価の具体的な実施体制・頻度等について伺う。

答弁 行政活動の効率化と効果の最大化は重要課題であり、本市では、総合計画に示したまちづくりの実現に向けて、PDCAサイクルの手法を取り入れている。初めに事業担当課が事務事業と上位体系の基本事業、施策の評価を実施する。各年度の実績を基に成果の達成度を評価しており、内部職員で構成する市政経営会議で確認している。頻度等は1年を単位として、

を議論していく。

質問 早急に観光振興基本計画（観光戦略プラン）を作成し、即座に実行してほしい。

答弁 観光協会の在り方と共に協議していく。

本市の不稼働資産（土地、建物）の活用について

質問 公共施設周辺等の利便性の良い土地、建物の処分により、まちの活性化や財政負担の軽減、人口減少対策になると思う。将来に負の遺産を引き継がないことが重要と考えるが、市の現状を伺う。

答弁 市ホームページで利活用の提案を募集するほか、施設の敷地入り口に掲示物を設置して問い合わせ窓口等を周知している。問い合わせや内覧の希望はあったが、売却、賃貸契約には

至らなかった。今後も計画的に取り組んでいく。

有害鳥獣に対する取り組みについて

質問 有害鳥獣に対する市の対策、今後の計画について伺う。

答弁 さまざまな手段で広報を行い、注意喚起を行っている。今後の計画では、鳥獣被害対策として「環境管理対策」「侵入防止対策」「捕獲・駆除対策」を基本に、関係機関と連携して市民の安全確保と被害の未然防止に取り組んでいく。

質問 本市も有害鳥獣に関して危機的な状況にあるため、農林課内に有害鳥獣に対する対策室を設け、有害鳥獣に特化した体制をとってはいかがか。

答弁 農林課や危機管理課で連携して対応している。



公明党
村上 清彦



阿賀野高校の魅力向上策について

質問 阿賀野高校は地域の将来を担う若者を育てる重要な教育機関であり、市にとって大きな意義を持つ。一方で少子化により高校を取り巻く環境は厳しく、市として魅力向上や教育活動の充実に向けた協働が必要と考える。まず、阿賀野高校の教育的・社会的価値や存在意義をどのように認識し、現状の課題をどう把握しているのか伺う。

答弁 阿賀野高校は地域資源を活用した実践的学習により地域理解と愛着を深め、地域で活躍する人材育成に貢献する重要な



日本共産党
宮脇 雅夫



小中学校とも学校給食無償化を実施せよ

質問 学校給食無償化を求める声は大きく広がり、政府も「来年4月から実施」とすると表明。対象を公立小学校に絞って実施を検討している。市では、令和5年12月の市議会に無償化を求める請願署名2,157筆が提出され、令和6年度から3分の1を助成している。



学校と認識している。生徒数減少により学校行事や部活動への影響、地域の担い手の減少や活力低下につながる大きな課題も把握している。

質問 地域と協働した特色教育や魅力化施策を進める上で、市としてどのような支援や関わりを持つのか伺う。

答弁 市では、魅力向上と生徒数増加に向け、若手職員を中心に振興策検討会を設置し、学習内容の充実やイメージ刷新、情報発信、生徒主体の活動、交流事業、費用助成などを検討している。教育委員会では、地域クラブとの連携も検討中である。学校長らと「地域連携コンソーシアム」設立も協議し、関係機関と連携して支援し、地域で活躍できる環境整備を進める。また、毎年、地元高校の存続を国・県に要望している。

質問 高校生が若者視点で市

の政策に関わる「リバースメンター」の仕組みをどう捉え、導入の可能性をどう考えるか。

答弁 若者の流出が続く中で若者視点は重要と認識しており、将来的に施策検討段階で高校生の意見をどう反映するのか、他自治体の取り組みも参考にしながら検討していく。



非正規労働者が多く、賃金も上がらない子育て世代は、物価高に苦しみながら懸命に子育てをしている。小学校だけでなく中学校も、国の重点支援地方交付金も活用して一刻も早く無償化すべきだ。

答弁 現時点で中学校は、現在実施している給食費の3分の1補助を継続していきながら、無償化を継続的に実施するための財源確保に努めるとともに、国の動向を注視しながら検討していく。

クマの出没、捕獲対策の抜本的強化を

質問 連日のように生活圏にクマが出没し、住民は恐怖感を覚え、外出自粛もしている。今、クマから住民の命と生活を守るため、頑張っている猟友会への

◆その他の質問◆ 訪問介護事業所の支援について

期待が高まっている。しかし、出勤手当は1日3千円と低い。県も緊急対策として捕獲の財政支援をするようになったが、対策の現状と課題について伺う。

答弁 クマの目撃情報は117件、捕獲頭数は40頭。目撃情報があった場合、関係者と情報を共有し、住民に注意喚起を行い、状況に応じて猟友会が警戒パトロールや搜索活動、捕獲用の檻やな設置を行う。課題は、捕獲等の資機材不足や猟友会の活動報酬見直しで、今議会に条例改正（鳥獣捕獲等手当を4千円に、緊急銃撃手当2万円を新設を上程。また、捕獲用の檻に設置するセンサーカメラやわな作動通知機器などを導入する。

福祉会館の廃止、安田体育館の存続

質問 福祉会館については、行政改革推進委員会の答申で「現状維持、将来的には大規模改修の検討を行う」とこととされているが、9月19日の議員全員協議会において市長から廃止の方針が伝えられた。その後、10月、11月に利用者説明会が、12月に市民説明会が現地で開催された。私は説明会の全てに出席し、市長は12月の説明会に出席された。多くの利用者（市民）から廃止に反対する意見や施設の変更は困難である旨の意見が出された。「現状維持」から一転「廃止」



無党派
天野 市栄



に方針転換をした理由は何か。

答弁 大規模改修費用が高額、人口減少による将来的な負担が大きいため、利用者の減少も想定される、代替施設が近隣にある、などのため。

質問 安田体育館は行政改革推進委員会の答申では「廃止検討」とされていたが、一転「大規模改修の上、存続」となった。方針転換をした理由は何か。市長へのたより、署名集めなど存続を求める市民の声はあったのか。

答弁 災害時の対応力の確保・向上を図る必要があるなどの理由で、市長として判断した。

質問 行政改革推進委員会の答申を重視した一方で、市民の声を軽視した結果、政局になって大失敗した事例を紹介したい。福祉会館の代替施設の一事として示された「瓢湖憩の家」は、私が市長時代に「廃止」方針だった

福祉会館の廃止方針案を撤回し存続を

質問 福祉会館は立地も良く、市民の学習機会や文化活動・交流を促進し、生活を充実させる役割や自治会活動の場を担い、人口密集地で災害時の指定避難所として、位置的にも規模的にも代替えのできない地域の大切な公共施設。市の説明会では、利用団体や周辺自治会、市



日本共産党
清水 博英



民から出た意見は廃止反対が多数だった。この多数の意見に添えて廃止方針案を撤回し、改修・存続すべき。

答弁 説明会では、方針案として市の考えを説明した。あくまでも決定ではなく、市民の声を聴いた上で最適解を求めている。

いきいきボランティア応援事業ならびにあがの市民病院人間ドックのポイント付与事業を継続せよ

質問 いきいきボランティア応援事業は、市が社会福祉協議会へ委託し、小学校登下校の見守りなど各種事業を行っている。今年度末でポイント付与が廃止となるが、ポイント付与対象事業やポイント数を見直すことも検討し存続を望む声もある。ま

た、あがの市民病院人間ドック受診者に対する3,000ポイント付与も今年度末で終了するが、周辺市町より高い自己負担を軽減する意味でも廃止せず存続すべき。

答弁 ポイントを使用できる加盟店の減少傾向が続き、これ以上の波及効果が見込めず、事業として将来的な前進が見えない状態で行政府とポイントの終了を判断した。人間ドック受診者に対し、ポイント付与をインセンティブとした受診者増加の取り組みは、十分目的を達成したと捉えている。今後も、継続して人間ドックを受けてもらえるような取り組みを行っていく。

◆その他の質問◆

政府による非核三原則見直し発言と阿賀野市の平和行政推進について

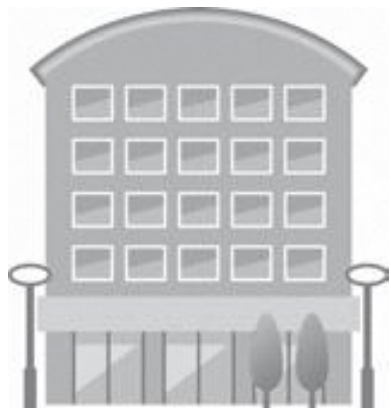
が、市長が代わったら大規模改修され存続となった。詳しい事情・経緯について市長はご存じか。

答弁 …。

◆その他の質問◆

1 地域計画とほ場整備

2 地域ポイント事業の終了



柏崎刈羽原発再稼働について

質問 市長は新潟日報のアンケートで「再稼働の条件は現状で整っているか」について「どちらかといえばそう思う」と回答しているがどのような考えからか。

答弁 原子力規制委員会の厳しい審査に合格していることを踏まえ「技術的には整っていると思う」という理由を付して回答した。

質問 国は世界で最も厳しい基準と称しているが、再稼働を急ぐために



日本共産党
松崎 良繼



米の需給と米価の安定対策について

質問 市場任せのコメ政策と減産誘導を転換し、国が需給と価格安定に責任を持つことが急務だが市長の見解を伺う。

答弁 再生産が可能な価格水準と、良質な国産食料が合理的な価格で安定的に供給されるよう、国が責任を持つていくべきだ。

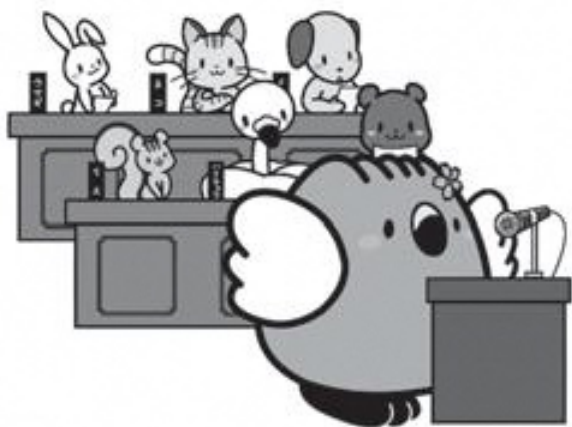
質問 小規模の基盤整備事業の要望も出ているが、所有者の同意が難しくなっている。市の上乗せ助成を求める声があり検討を。



○一般質問は1人当たり60分の持ち時間の中で、質問と答弁のやり取りが繰り返されます。議会だよりに掲載している内容は質問議員がまとめたもので、要旨を掲載しています。

○議員氏名左側の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、市ホームページの市議会映像配信のページで、その議員の定例会での一般質問のやり取りが視聴できます。

○一般質問の詳細については、会議録または市ホームページでご覧いただけます。12月定例会分は3月中旬に公開予定です。会議録は、市立図書館、各支所、市役所1階ロビーに用意してあります。



オンデマンドバスのバス停増を

質問 バス停を増やすことが新方式成功の要だ。

答弁 自治会長会議などで地域の声を聴き随時見直しを行っている。

会計年度任用職員の昇給を

質問 総務省のマニュアルでは、経験年数分の号給を加えることが望ましいとされている。昇給する制度に改めるべきだ。

答弁 昇給については、「客観的な能力の実証」及び「勤続による能力の向上」を指標として判断する必要があると考え、県や他市の状況を注視し、検討していく。

答弁 上乗せ助成は他市の状況などを参考に検討していく。

次回3月定例会の予定

2月18日の議会運営委員会で正式に決定します。
その後、市ホームページ・市公式LINEでお知らせします。

月 日	会 議 名
2月18日(水)	議会運営委員会 (定例会の運営方針決定)
2月25日(水)	本会議 (施政方針、議案上程、一般質問)
2月26日(木)	本会議(一般質問)
3月 4日(水)	本会議(一般質問)
3月 5日(木)	総務文教常任委員会
3月 6日(金)	産業厚生常任委員会
3月 9日(月)	予算審査特別委員会
3月10日(火)	
3月11日(水)	
3月13日(金)	本会議(委員長報告、採決)

阿賀北五市議会議長会連絡協議会

11月20日、亀田屋(保田)で阿賀北五市議会議長会連絡協議会の議員研修会が開催されました。阿賀野市での開催は8年ぶりとなり、新発田市、村上市、胎内市、五泉市、阿賀野市の正副議長、議会運営委員会・各常任委員会の正副委員長、議会事務局長等49人が出席しました。

この研修会では、安田瓦協同組合の遠藤和人理事長から「瓦の話」と題し、安田瓦のみならず瓦全般について詳しくご講演いただきました。

また、研修会終了後の意見交換会では、京ヶ瀬ベンチャーズの皆さんによる軽快な演奏が披露されました。



地域防災訓練

10月5日、水原総合体育館や市役所駐車場で、水原小学校区の市民を対象に、震度6強の地震が発生したことを想定した地域防災訓練が実施され、市議会議員も参加しました。

自治会避難訓練や避難所開設設営訓練、救急講習、救出訓練のほか、初めてペット同行避難訓練や自衛隊・日赤奉仕団によるカレーライスの炊き出し訓練も行われました。

参加した市民の皆さんも訓練や講習に真剣に取り組んでいました。



ようこそ阿賀野市へ 行政視察受け入れ

- 10月27日に兵庫県議会文教常任委員会の皆さまが来庁され、「中学生及びクラブ指導者中体連及び吹奏楽連盟主催の大会参加費補助」について研修を行いました。
本市学校教育課担当者から説明を受けました。
- 10月28日に北海道名寄市議会市政クラブ(会派)の皆さまが来庁され、「道の駅あがの整備事業」について研修を行いました。
本市商工観光課、建設課の担当者から説明を受け、「道の駅あがの」の見学を行いました。
- 10月29日に青森県おいらせ町議会産業民生常任委員会の皆さまが来庁され、「観光資源の活用」について研修を行いました。
本市商工観光課、公園管理事務所の担当者から説明を受け、瓢湖水きん公園の見学を行いました。
- 11月4日に神奈川県川崎市議会健康福祉委員会の皆さまが来庁され、「地域福祉計画」について研修を行いました。
本市社会福祉課、健康推進課の担当者から説明を受けました。



道の駅あがので説明を受ける
名寄市議会議員



コミュニティセンター瓢湖憩の家で
説明を受けるおいらせ町議会議員

阿賀野高校生との懇談会を開催しました

11月5日、未来の阿賀野市を支えていく若い世代の意見を聴くため、阿賀野高校生との懇談会を開催しました。

当日は、3年生22人と広報広聴委員等8人が参加し、4班に分かれワークショップ形式による意見交換を行いました。

事前に阿賀野市の特徴や人口推移などの資料を渡し、用意したテーマに沿って、意見を出し合いました。出された意見や要望を付せんに書き出し、テーマごとに振り分け、班ごとに発表し全体で共有しました。

懇談の中で生徒からは、「話を真剣に聞いてくれ、また問いかけてくれて良かった」「自分の住むまちをより良くするために自分から行動したい」「若者が集まれる場所づくりや子育て支援に力を入れてほしい」など、多くの感想や意見が出されました。
市議会として、今後も若年世代の声に耳を傾ける場を確保するべく、改善を加えながら引き続き取り組みを進めていきたいと考えています。

なお、今回懇談した生徒が、12月8日「政治・経済」の授業で、本会議を傍聴しました。



発行：阿賀野市議会
編集：広報広聴委員会
〒959-2092
阿賀野市岡山町10番15号
TEL：0250-61-2489
FAX：0250-61-2067
E-mail：gikai@city.agano.niigata.jp

問い合わせは
こちらから



次号は令和8年3月31日発行の
予定です。

阿 天 荒 遠 清 風 清 松
部 野 澤 藤 野 間 水 崎
順 市 浩 栄 輝 博 良
三 榮 和 孝 一 榮 英 繼

広報広聴委員会

委員長
副委員長

編集委員 遠藤 孝

これからあがの市議会だよりが、より見やすく、分かりやすい紙面の作成に向け、広報広聴委員会として取り組んでまいりますので、よろしく願います。

9月定例会後のさまざまな議会活動を紙面に掲載させていただきました。その中で、初めての取り組みとして阿賀野高校3年生と市議会議員の懇談会を開催し、若い世代の貴重な意見を聴くことができました。今後、委員会等で協議して市政に反映していきたいと思っています。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

編集後記

